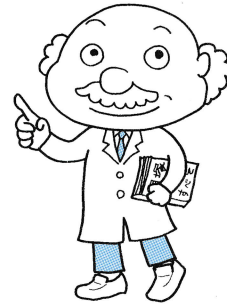


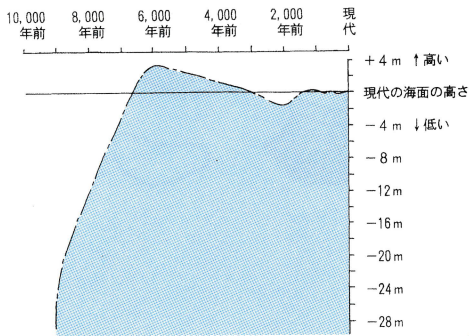
# Q&A1. かいづか 貝塚をとりまく環境 かんきょう

畑などに貝がらが散らばっているのを見たことはないでしょうか。なぜ、海でもないのに貝が散らばっているのでしょうか。これは貝塚といって、富士見市では今までに15カ所も確認されています。中でも水子貝塚は最も大きく、約5,500年前の縄文時代の遺跡です。さあ、これからこの貝塚について考えていきましょう！

Q：どうして富士見市に貝塚があるの？



▲畑に散らばった貝がら



モリ：『博士、貝塚ってなあに？』

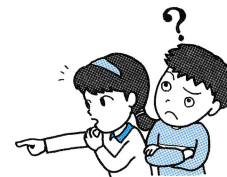
博士：『それはな、昔の人が貝を食べて、その貝がらを捨てた場所のことじゃ。貝塚の中からは大昔に使われていた道具や動物の骨なども発見されておる。積もった貝がらのカルシウム（人間の骨をつくっている成分と同じ）が、溶けてなくなってしまう食べカスなどを現代まで保存バックしてくれたのじゃ。』

カヤ：『でも富士見市には海がないのに、どうしてたくさんの貝がらが出てくるの？』

博士：『それはじゃな、左の表を見てもらえば、わかるじゃろう。』

カヤ：『あれ、海面の高さがずいぶん変わってるよ！』

モリ：『何か関係があるのかな？』



◀海面の高さの移りかわり

**A** 地球は今から約2万年前まできびしい寒さに包まれていたが、気温は一転して次第に温かくなり、約6千年前にもっとも高くなりました。そして北極や南極の氷や高山の雪がとけ、海面が高くなり、低い土地は海に沈み、陸地に海が入ってきました（縄文海進）。富士見市でも台地の下までが海となり、海岸ぞいの干潟では多くの魚や貝をとることができました。そうしてこの魚や貝の食べカスを捨てたところが、貝塚として現在まで残っているのです。

縄文海進時（約5,500年前）の関東地方▶

